# 要求される集中的処理

## 消費時代に合うゴミ焼却施設も

**ゴミ処理をふりかえって**

市制施行当時の記録を見ると、「廃棄の処理については手車八台、冬期に備え俵八台で荷揚場集荷、……竜集不便の場所には馬車……無断投棄……竜集は制札をなし……ど配されており、「廃棄箱は大型七、中型五十一……「年間竜集量は千七百二十トン」となっています。二十年を経過した現在では、四トンダンプ三台、二トンダンプ二台で年間竜集量は約一万五千トン、二十年間にふえたゴミの量と所得は、大体十倍になったと推定されます。

科学の進歩と経済の高度成長のために、大量消費時代とか使い捨て時代といわれる世の中になり量は膨大になり、質も変化し、堆肥や埋設などで処理することができなくなってきました。

例えばナイロン、ビニール系のものなどは、どんな方法でも腐ることはないし、量はふえています。どうしても専門的な集中的な処理が要求されるこのこと自体当然の経過として現われてきました。そこで時代に即応した態勢を整えていくのが人間のうえであり、また、住民の信託に応える公僕の務めでもありますが、しかし、人間、生活、務めのちえの中にも問題点は多くあるはずです。市制施行以来二十年のゴミとし尿の処理の推移をふりかえってみて、今後の方向と住民一般の協力態勢の必要性を考え、また、終末処理というものが如何に経費のかかるものであるかを認識願い、これらの経費が住民の税金という名の負担でまかなわれているものですから、住民各位の協力に期待することろ大きいとも思われますので、いっしょに考えていただきたいと思います。

当時は大八車で運搬しなければならない時代でしたから「権」で引張って運び、しかもゴミは民間の焼却施設に委託して処理していました。しかし、ゴミの量は年々増大し、三千トンの量は民間の焼却施設では処理しきれなくなり、市営ゴミ焼却場建設の機運が高まってきました。

昭和三十四年、当時としては将来のゴミ増加量を見込んだものとして一日の処理能力十五トンの焼却場が完成しました。現在の旧炉と時代はいるものがこの炉です。と

昭和42年の 8・28水害におけるゴミの搬出作業

ころが、ゴミの量は予想した量をはるかに上回り四十年ごろにはもうどうにもならなくなり、北上部落の提外地を借り受けここに投棄場を立てを行ない、水害のさいの大量のゴミもどうやら処理をしてきました。

昭和四十三年、一日三十トン処理能力の焼却炉（現在の新炉）を増設することになり、焼却だけを行って現施設のそばにゴミ溜をつくり、焼却だけを夜間にまで時間延長して処理に当たっています。今後は、できるだけ近い時期に科学の粋を集めた焼却施設の増設をまず考えなければならないと思います。それには、時代に即応した産業廃棄物などの処理も考えなければならないし、精神的な住民の協力も必要です。

二十年間のゴミ量の増大、質の変化は、実に驚くべきものですが、必然的にその処理に要する経費もまた同様で、昭和二十五年にゴミ一トン当たり五百八円のものが昨年度には二千五百六十四円となり、ゴミのため三千百三十一万円余が煙と灰に化しています。

## 科学肥料の普及でし尿処理も逆比例

しゅう尿は、もともと農村の唯一の肥料として自家処理はもちろん、可家の農家の間から金をもらいながら取り尿も農家の間から金を支払って汲み取り運搬し消費していたものですが時代が進むにつれ科学肥料の普及とあいまって逆比例し、しかも汲み取り業者というものが営業する状況になりました。昭和三十四、五年ごろには、収集拡大され、また、燃えにくいゴミが多くなってきたことなどからこの焼却能力にも限度を期たしてきました。そうした中でも、他の市町村に先がけ、昨年十月から全市のゴミ収集を実施しております。

現在では、急場の策として現施設のそばにゴミ溜をつくり、焼却炉（現在の新炉）を増設する事態にまでなったのです。三十九年上尿処理施設の建設にふみ切り、一日三十六キロリットル処理能力のものを完成しました。

しかし、稼動を始めて間もなく新浪地蔵にあい各所に故障を出し、復旧するにかなりの年数を要しましたが、この処理施設もすぐ飽和状態になり四十三年一日三十五キロリットル処理可能な施設を増設することになり、四十四年暮に完成しました。

人間が一日に排出する尿の量は平均一・二リットルくらいといわれ、当市の人口五万七千人を乗じても今の施設では十分処理可能なはずですが、学校、事業所などで五百人槽、六百人槽という大規模な水洗化を進めており、すくなくとも年に数回以上は消掃を行なうのでこの一日の清掃のためにバキュームカーで二十一四十台くらいの尿を汲み出さなければなりません。

このように不時の投入量があると処理場の能力を上回ることにもなり現施設だけではまだ不十分といえる面をもっています。

市でも農村部の各所に肥え溜をつくったりして便宜を図ったのですが処理しきれなくなり、さらに河川などへ不法投棄をする事態にまでなったのです。

なお現在では、三百人槽、六百人槽、一千人槽、二千人槽、三千人槽、五百人槽、六百人槽、七百人槽、八百人槽、九